

7月21日に本校教職員と四條畷市立小・中学校教職員を対象として「諸検査と子どもの発達」についての校内研修を行いました。本研修は、太田ステージ検査、新版 K 式発達検査、WISC-IVの3つの検査について行いました。

太田ステージ検査

東京大学医学部小児科で25年間に渡る自閉症治療のまとめとして1992年に刊行されたもの。自閉症児対象ではあるが、知的障がい児者に対しても有効。

シンボル表象機能（手出し・指差し、言葉の理解・表出、ごっこ・見立て。模倣などで観察できる）のレベルにより Stage I（感覚運動期：0歳～18カ月）から Stage V（具体的操作期：7・8歳以降）に分かれます。



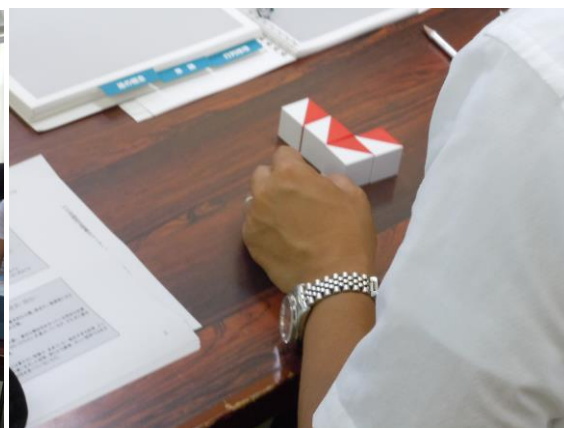
新版 K 式発達検査

1951年京都市児童院（現 京都児童福祉センター）で作成されました。その後、3回にわたって改訂作業が行われ、2002年3月に「新K式2001（略称）」が完成し、今日に到っています。検査項目を0歳～成人にまで拡大し、整理したものです。検査は3領域（姿勢・運動、認知・適応、言語・社会）にわたって実施し、プロフィールを作成して発達年齢と発達指数を求めるものです。



WISC-IV知能検査

5歳0カ月～16歳11カ月の子どもを対象とした、世界でも広く利用されている代表的な児童用知能検査。全15の下位検査（基本検査：10、補助検査：5）で構成されており、10の基本検査を実施することで、5つの合成得点（全検査IQ、4つの指標得点）が算出されます。それらの合計得点から子どもの知的発達の様相をより多面的に把握できます。



今回の研修では、実際の検査を体験しながらとてもわかりやすく説明していただきました。また、検査を授業に取り入れる方法なども教えていただきましたので、授業の場面でも活用して生徒理解につなげていきたいと思えます。